

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)長岡京市天神1丁目 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境									3.5
1 音環境		4.0	0.15	3.3	1.00			3.4	
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		5.0	0.50	3.5	0.50				
1 開口部遮音性能	T-2以上を採用	5.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
2 温熱環境		2.0	0.35	4.0	1.00			3.6	
2.1 室温制御		3.0	0.50	4.0	1.00				
1 室温	断熱等級4相当	3.0	0.63	-	-				
2 外皮性能		3.0	0.38	4.0	1.00				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		2.4	0.25	3.5	1.00			3.3	
3.1 星光利用		1.8	0.43	3.4	0.40				
1 星光率	住居部 2.0% ≤ 星光率	1.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30				
3 星光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.40				
1 日光制御	カーテン、庇を組み合わせて制御	-	-	4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.21	3.0	0.20				
3.4 照明制御		3.0	0.36	-	-				
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00			3.8	
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上開閉可能な窓を確保している	-	-	5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能									3.1
1 機能性		2.4	0.40	3.8	1.00			3.5	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性	Gbitクラスのブロードバンドが利用可能	-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-			3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル張り	5.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:シートフローリング、壁・天井:ビニールクロス	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	架橋ポリエチレン管、耐火2層管	3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性		3.0	0.30	2.6	1.00	2.6
	3.1 空間のゆとり				2.2	0.50	
	1 階高のゆとり				3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ				1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり				3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00			
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20			
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20			
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10			
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10			
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20			
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3	室外環境(敷地内)			0.30			3.1
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30			2.0
2	まちなみ・景観への配慮	景観協議を行い、まちなみへの調和や良好な景観形成を行って	4.0	0.40			4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30			3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR	建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1	エネルギー			0.40			3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱等級4相当	4.0	0.20			4.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10			3.0
3	設備システムの高効率化	BEI0.99	3.1	0.50			3.1
4	効率的運用		3.0	0.20			3.0
	集合住宅以外の評価						
	4.1 モニタリング						
	4.2 運用管理体制		3.0	1.00			
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング		3.0	0.50			
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50			
LR2	資源・エネルギー			0.30			2.9
1	水資源保護		3.0	0.20			3.0
	1.1 節水		3.0	0.40			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		3.7	0.20			3.7
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.10			
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.20			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.10			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.20			
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.30			
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.70			
	3.2 フロン・ハロンの回避						
	1 消火剤						
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	5.0	0.50			
	3 冷媒		3.0	0.50			
LR3	敷地外環境			0.30			3.1
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率/85%	3.5	0.33			3.5
2	地域環境への配慮		2.9	0.33			2.9
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25			
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25			
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25			
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25			
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.1	0.33			3.1
	1 騒音		3.0	0.40			
	2 振動		3.0	1.00			
	3 悪臭						
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40			
	1 風害の抑制		3.0	0.70			
	2 砂塵の抑制						
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30			
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20			
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストを一部満たす。広告物照明	4.0	0.70			
	2 発光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)長岡京市天神1丁目 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 数地外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		-	2.0	1.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	1.0	-	1.0	2.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
2.1.3 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用															
3 設備システムの効率化															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 216% 隣接間隔指標Rw 0.34															
地表面対策面積率 35.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!															
見付面積Sb 30㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 30m 基準高さHb 30m															
緑地 88㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															